MINKABU THE INFONOID
株式会社　ミンカブソリューションサービシーズ
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望＝ドル円は最近のレンジ内で方向性を探る動きか

［１０月７日からの１週間の展望］

－－

週間高低（カッコ内は日）　9月30日～10月4日

	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	142.14	147.24(3)	141.65(30)	146.07	+3.86
ユーロ・ドル	1.1161	1.1209(30)	1.1008(3)	1.1032	-0.0130

＝＝

国内株・金利／米国株・金利

	終 値	前週末比		終 値	前週末比
日経平均株価	38,635.62	-1193.94	日本10年債利回り	0.885	+0.031
ダウ平均株価	42,011.59	-301.41	米10年債利回り	3.846	+0.095

＝＝

＜来週の主要経済統計等＞

７日　日銀支店長会議、さくらレポート公表
　日本８月景気動向指数速報値
　独８月製造業受注指数
　ユーロ圏８月小売売上高
８日　日本８月勤労者世帯家計調査、日本８月経常収支
　独８月鉱工業生産指数
　カナダ８月貿易収支
　米８月貿易収支
９日　ＮＺ準備銀行（ＲＢＮＺ）政策金利
　独８月貿易収支
１０日　米９月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数
１１日　独９月消費者物価指数確報値
　英８月鉱工業生産指数、英８月製造業生産指数、英８月貿易収支
　米９月生産者物価指数
　カナダ９月雇用統計
　米１０月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値
１３日　中国９月消費者物価指数、中国９月生産者物価指数

－－

【前回のレビュー】米経済指標の発表に一喜一憂する展開となりそう。日銀は当面は利上げに動く必要はなく、やや円は売られやすい展開となりそう。ドル円は１４５円台まで戻してきたものの、このまま一本調子で上昇するほどの材料には乏しく、米経済指標に左右されながら一進一退の動きを続けるとした。

【石破内閣の利上げ封印圧力でドル円は上昇】

９月２７日には自民党総裁選の第１回目の投票で積極財政や金融緩和に前向きな高市氏がトップに立ったことで、ドル円は１４６円台半ばまで上昇した。決選投票で石破元幹事長が勝利したことを受けて、ドル円は１４６円台から１４２円近くまで急激な円高が進行した。さらにユーロ円、ポンド円、豪ドル円などのクロス円も急落した。

週明けの９月３０日には日経平均は１９１０円安と急落、ドル円は一時１４１．６０台までドル安円高が進んだ。この日は中国政府がこれまでに打ち出してきた景気刺激策を好感して上海株が８％超の上昇となったことなどもあり、ドル円は売り一巡後に上昇に転じて１４３円台を回復した。

さらにこの日、米連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）のパウエル議長が「ＦＲＢは利下げを急ぐ状況にはない」と述べるとともに、経済見通しが予想通りなら年内さらに２回の０．２５％ポイントの利下げを示唆した。この発言を受けて、ドル円は１４３．９０台

まで上昇した。なお、ＣＭＥ　ＦＥＤウォッチでは、１１月の米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）での０．５０％の利下げ確率は、４日に３２％程度まで低下している。

１０月１日には日経平均が７００円超の上昇となり、ドル円は１４４円台半ばまで上値を伸ばした。ただ、この後、「イランがイスラエルへのミサイル攻撃を準備している」との報道などを受けて、リスク回避の円買いから１４３円近辺まで下落した。

２日には、米ニュースメディアが、イランによるイスラエルへの大規模ミサイル攻撃を受けて、イスラエルが数日以内に大規模報復攻撃を行う計画と報じ、中東情勢懸念が一気に広がった。ドル円は１４４円台前半から１４３円台半ばまで下落した。

２日の海外市場では、円売りが強まった。この日、石破首相と植田日銀総裁が初の会談を実施、意見交換した。植田日銀総裁は、「政府と日銀は緊密に連携することで一致した」「経済物価見通しが日銀の見通し通りなら、見極める時間は十分にある」と述べ、利上げ姿勢を封印していた。その前に加藤財務相からも「金利が上がること前提ではなく、適切な金融政策を期待」との発言があった。

そして、石破首相が「現在、追加の利上げをするような環境にはない」と明言したことで、円売りが一段と勢い付いた。ドル円は１４６円台半ばまで上昇した。３日になってもこの流れが継続して、東京市場では１４７円台に乗せた。その後、４日にかけて１４６－１４７円台で推移している。

１０月７日の週は１０日に米９月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数、１１日に米９月生産者物価指数などの発表があり、その動向が注目される。市場の関心はインフレから労働市場の動向に移っており、米消費者物価指数や米生産者物価指数はよほど大きくブレない限り、影響は限定的となりそうだ。ただ、インフレ動向が市場予想から大きく下振れするようだと、１１月のＦＯＭＣで大幅利下げ期待が高まり、ドル売り圧力が高まる可能性もある。

今後は米経済指標や要人発言などに左右されそうだ。石破内閣の利上げ封印圧力により、日銀は当面利上げに動くことはないとみられる。一方で、不透明な中東情勢を受けて円高圧力が高まる可能性はある。こうした中、ドル円は最近のレンジ内で方向性を探る動きになるとみられる。ドル円の先の予想レンジは、１４２．００～１４９．００円。

日米の経済指標やイベントとしては、７日に日本８月景気動向指数速報値、８日に日本８月勤労者世帯家計調査、日本８月経常収支、米８月貿易収支、１０日に米９月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数、１１日に米９月生産者物価指数、米１０月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルは上値の重い展開か】

９月３０日に欧州中央銀行（ＥＣＢ）のラガルド総裁が「インフレ目標の２％を速やかに達成できるとの確信が増した」との見解を示した。また、「それを１０月の理事会で考慮に入れる」と述べ、１０月のＥＣＢ理事会での利下げを示唆した。１０月１日には９月ユーロ圏消費者物価速報が前年比＋１．８％とインフレ目標２％を下回ったことなどがユーロ売り圧力となり、１．１０４０台まで下落した。２日には９月米ＡＤＰ雇用統計の上振れなどからさらに軟化した。

１０月１７日のＥＣＢ理事会では利下げの可能性が高まっている。この先、ユーロ圏やドイツなどの経済指標が鈍化を見せるようなら、ユーロには売り圧力となりそうだ。こうした中、ユーロドルは上値の重い展開が続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、１．０８００～１．１１５０ドル。

１０月１日には中東情勢の緊迫化によるドル買いの動きから、ポンドドルは１．３２台前半まで下落した。さらに３日には英ガーディアン紙が英中銀のベイリー総裁が金利引き下げに「もう少し積極的になる」可能性を示唆と報じたことで、ポンド売りの動きが広がった。短期金融市場では次回１１月会合での利下げを織り込み、１２月の追加利下げ観測も高まっている。

これまで英国ではサービスインフレが根強く、利下げの動きが遅れるとの見方が優勢だったが、センチメントが急速に悪化している。ポンドドルは１．３１００ドル割れまで値を崩しており、下落基調が継続するとみられる。ポンドドルの目先の予想レンジは、１．２８００～１．３４００ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、７日に独８月製造業受注指数、ユーロ圏８月小売売上高、８日に独８月鉱工業生産指数、カナダ８月貿易収支、９日にＮＺ準備銀行（ＲＢＮＺ）政策金利、独８月貿易収支、１１日に独９月消費者物価指数確報値、英８月鉱工業生産指数、英８月製造業生産指数、英８月貿易収支、カナダ９月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

＜免責事項＞
本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービシーズは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービシーズが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>
本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービシーズ)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。